

2018年6月26日

お客様各位

新潟県労働金庫

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当金庫の2018年3月期決算の概要、2019年3月期事業計画の概要および
役員体制についてご案内いたします。

敬具

2018年3月期決算の概要

1. 収支の状況

項目	当期	前期	対前期増減額	対前期増減率
経常収益	108億94百万円	109億1百万円	7百万円	0.06%
経常費用	88億27百万円	88億40百万円	13百万円	0.14%
経常利益	20億67百万円	20億61百万円	6百万円	0.29%
特別利益	-百万円	-百万円	-百万円	-%
特別損失	72百万円	30百万円	42百万円	140.00%
税引前当期純利益	19億94百万円	20億30百万円	36百万円	1.77%
法人税等合計	5億18百万円	5億25百万円	7百万円	1.33%
当期純利益	14億76百万円	15億4百万円	28百万円	1.86%
業務純益	21億48百万円	21億46百万円	2百万円	0.09%
実質業務純益	21億48百万円	21億46百万円	2百万円	0.09%
コア業務純益	22億59百万円	21億79百万円	80百万円	3.67%

(注) 実質業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額

コア業務純益 = 実質業務純益 - 国債等債券損益

(1) 経常収益

貸出金利息は、貸出金平均残高が増加したものの、貸出金利回りが0.02ポイント低下したことから、前期に比べ52百万円減少しました。

預け金利息は、市場金利の低下に伴い預け金利回りが0.03ポイント低下したことなどから、前期に比べ73百万円減少しました。

有価証券利息配当金は、有価証券残高が増加したことなどから、前期に比べ1億67百万円増加しました。

預け金利息と有価証券利息配当金を合計した余裕金利息は、前期に比べ94百万円増加しました。

一方、労働金庫連合会から受領する利用分量に応じた配当金は、前期に比べ2億16百万円減少しました。

これらの結果、経常収益全体では、前期を7百万円下回る108億94百万円となりました。

(2) 経常費用

預金利息は、預金平均残高が増加したものの、預金金利の引下げなどにより預金金利回り(譲渡性預金含む)が0.01ポイント低下したことから、前期に比べ29百万円減少しました。

また、経費は、預金保険料率の引下げに伴い預金保険料が減少したことなどから、前期に比べ1億2百万円減少しました。

一方、評価損となっている有価証券を一部売却・解約し、運用資産の健全化をは

かったことから、売却・償還損を1億12百万円計上しました。

これらの結果、経常費用全体では、前期を13百万円下回る88億27百万円となりました。

(3) 経常利益

経常利益は、前期を6百万円上回る20億67百万円となりました。

(4) 特別利益および特別損失

特別利益の計上はありませんでした。

また、特別損失は、店舗建替え等に伴う固定資産処分損を計上したことから、前期を42百万円上回る72百万円となりました。

(5) 当期純利益

経常利益から特別損益を差し引いた税引前当期純利益は、前期を36百万円下回る19億94百万円となりました。税引前当期純利益から、法人税等4億85百万円と、税効果会計の法人税等調整額33百万円を差し引いた当期純利益は、前期を28百万円下回る14億76百万円となりました。

2. 主要勘定の状況

項目	当 期	前 期	対前期増減額	対前期増減率
預 金	7,976億94百万円	7,820億84百万円	156億10百万円	1.99%
貸 出 金	3,805億94百万円	3,783億15百万円	22億79百万円	0.60%

(1) 預 金

預金・融資等のご利用1件につき100円を地域や社会に貢献する活動を行う団体等に寄付することなどを内容とした「笑顔プロジェクト」の取組みとして、積立預金増強運動を行ったほか、退職金専用定期預金の推進強化や相続定期預金を継続して取り扱うなど、お客様のニーズにきめ細かく対応できるようつとめました。

この結果、期中増加額は156億10百万円(前期172億38百万円)、残高増加率は1.99%となりました。

(2) 貸出金

ご夫婦が連帯して債務を負う場合に双方が生命保険に加入できる連生団信制度がセットされた労働組合員専用の「あんしん住宅ローン」や、就職内定者が利用できる「就職内定者向け融資制度」の取扱いを開始したほか、医療、介護や育児に関する費用のほか、暴風雨や洪水等の自然災害からの復旧に必要な費用にご利用いただける「福祉ローン」の金利を引き下げるなど、融資商品の新設や制度改正を行いました。

あわせて、生協組合員の方がご利用いただける「コープローン」や、インターネット経由の融資申込である「ネットカンタン仮申込」の利用拡大をはかる取組みを継続して実施したほか、銀行カードローンに係る問題点などを学習会等で周知した

うえで、高利なクレジット等から借り換える運動を展開しました。

この結果、期中増加額は22億79百万円（前期18億41百万円の減少）、残高増加率は0.60%となりました。

3. 主な諸比率・諸利回りの状況

(1) 諸比率

項 目	当 期	前 期	対前期増減	
自己資本比率 (国内基準)	18.48%	19.02%	0.54%	
預 貸 率	(残高)	47.71%	48.37%	0.66%
	(平残)	47.30%	48.20%	0.90%

(2) 諸利回り

項 目	当 期	前 期	対前期増減
貸出金利回り	1.85%	1.87%	0.02%
預け金利回り	0.37%	0.40%	0.03%
有価証券利回り	1.41%	1.20%	0.21%
(余裕金利回り)	(0.47%)	(0.46%)	(0.01%)
資金運用利回り	1.19%	1.24%	0.05%
預金利回り	0.03%	0.04%	0.01%
経 費 率	0.86%	0.89%	0.03%
預金原価率	0.89%	0.93%	0.04%
資金調達原価率	0.90%	0.93%	0.03%
預金貸出金利鞘	0.96%	0.94%	0.02%
総資金利鞘	0.29%	0.31%	0.02%

(注) 預金原価率 = 預金利回り + 経費率

資金調達原価率 = (資金調達費用 - 金銭の信託運用見合費用 + 経費) ÷ 資金調達勘定計平残

預金貸出金利鞘 = 貸出金利回り - 預金原価率

総資金利鞘 = 資金運用利回り - 資金調達原価率

4. 不良債権の状況（リスク管理債権額）

項 目	当 期	前 期	対前期増減額	対前期増減率
破綻先債権	2億11百万円	2億26百万円	15百万円	6.63%
延滞債権	16億44百万円	15億30百万円	1億14百万円	7.45%
3カ月以上延滞債権	1億42百万円	1億22百万円	20百万円	16.39%
貸出条件緩和債権	- 百万円	- 百万円	- 百万円	- %
合 計	19億98百万円	18億80百万円	1億18百万円	6.27%
リスク管理債権比率	0.52%	0.49%	0.03%	

リスク管理債権額の合計は、前期に比べ1億18百万円増加し、19億98百万円となりました。

この結果、貸出金全体に占めるリスク管理債権額の割合は、前期に比べ0.03ポイント上昇し、0.52%となりました。

2019年3月期事業計画の概要

1. 基本方針

協同組織の福祉金融機関として、会員やお客様から信頼され、必要とされる金融機関をめざして、「中期経営計画2017」（2019年度までの3カ年計画）に基づき、以下の3点を基本方針とします。

（1）会員推進機構が中心となった運動による利用者の拡大

当金庫に求められる役割を発揮することにより、「笑顔プロジェクト」で培った会員との運動基盤をさらに強化し、組合員の認知度を高めて、利用者の拡大をはかります。

（2）働く人の「生活サポート」に向けた対応力の向上

将来に向けた資産形成のご相談や融資の返済に係るご相談など、幅広い勤労者のさまざまな金融ニーズに適切に対応するため、金融知識に係る教育を強化するとともにお客様本位の業務運営を徹底し、顧客対応力の強化をはかります。

（3）非営利協同セクターとのネットワーク構築

NPO等への訪問を定着化させて、これらの団体のニーズを把握するとともに、団体の職員や活動参加者から当金庫をご利用いただくため、非営利協同セクターとのネットワークの構築につとめます。

2. 収支計画

項目	金額	対前期増減額
経常収益	107億86百万円	1億8百万円
経常費用	87億59百万円	68百万円
経常利益	20億27百万円	40百万円
当期純利益	14億48百万円	28百万円

(1) 経常収益

貸出金利息は、金利引下げの影響などにより、前期に比べ1億9百万円減少する計画としています。

有価証券利息配当金が、有価証券残高の増加に伴い、前期に比べ1億17百万円増加するものの、預け金利息が、市場金利の低下に伴い、前期に比べ1億44百万円減少する計画としていることから、預け金利息と有価証券利息配当金を合計した余裕金利息は、前期に比べ28百万円減少する計画としています。

これらなどにより、経常収益は、前期を1億8百万円下回る107億86百万円を計画しています。

(2) 経常費用

経常費用は、信用保険料などの役務取引等費用が増加する見込みであるものの、前期に計上した有価証券の売却・償還損は計画として見込まないことなどから、前期を68百万円下回る87億59百万円を計画しています。

(3) 経常利益

経常利益は、前期を40百万円下回る20億27百万円を計画しています。

(4) 当期純利益

当期純利益は、前期を28百万円下回る14億48百万円を計画しています。

3. 主要勘定計画

項目	期中増加計画	期末残高計画	対前期増減率
預金	60億円	8,036億94百万円	0.75%
貸出金	20億円	3,785億94百万円	0.52%

(1) 預金

預金は、60億円の残高純増を計画します。

(2) 貸出金

貸出金は、20億円の純減を許容する計画とします。

役員改選

今総会は役員改選期にあたり、理事・監事の選任を行いました。

1. 理事(常勤)の体制

理事長 齋藤 敏明 (新任)
専務理事 中川 亨
常務理事 大津 岳
常務理事 鶴巻 洋介 (新任) (前:業務統括部長付)

ほかに非常勤理事 17名

なお、理事長の江花 和郎と常務理事の中村 綾男は退任いたしました。

2. 監事(常勤)の体制

常勤監事 大岩 敏和

ほかに非常勤監事 4名

以上

本件に関するお問い合わせ先
財務部 鷲尾

TEL 025-223-8207
FAX 025-228-3419